

の ば れき し 野 庭 の 歴 史

橋 下 賢 明

1. 野庭町のはじまり: 相模の国 ^{さかど} 尺度郷 山の内荘 野場 → 現在の港南区野庭町
昭和11年: 横浜市に合併(編入) ← 鎌倉郡永野村上(下)野庭
2. 山の内荘の立荘: 保安年代(1123年) 鳥羽天皇の時代……………鎌倉市史より
鳥羽天皇の皇女(障子)→八条院の院領として山の内荘となる。
・範囲: 南: 深沢、子袋坂を境に鎌倉郡
・西: 柏尾川の西岸、下郷・長尾台・田谷・玉縄
・北: 武蔵の国 保土ヶ谷境まで
・東: 永谷、芹ヶ谷、野庭、中郷、上郷 久良岐郡に接する。
3. 源 頼朝の領地となる: 建久3年(1192年) 鎌倉幕府の開設、征夷大將軍……………荘園の開発を推進
・開発令
・建保3年(1215年) 各地の領土に「地頭の開発した田畑は地頭別名田として
3年間免租、以後も雑公事免除」
・山の内荘も各地で沼地、湿地の開拓……………田畑の急増
○関城: 深田の台地に侍所の別当・和田義盛らによって築かれる。(1200年頃)
(久良岐郡 日野・日下の眼下、永谷・野場の間道、丘を望見出来る要衝の地)
4. 北条義時(時政の子): 山の内荘の変容 : 建長5年(1253年)頃山の内一帯は建長・円覚その塔頭・末寺
の領地となる
など大堂伽藍の軒を連ね豪壮華麗な街を形成、
山の内荘の山の内以外の農耕地は地名に郷をつけて
呼ぶようになった。(野庭(場)郷)
・鎌倉街道: 裏街道の近道が郷の西寄りを南から北へ抜けていた。
鎌倉—子袋谷—岩瀬—桂—小菅ヶ谷—永谷—保土ヶ谷
(山あり、山裾を廻って)
・馬洗川: 野庭郷と永谷郷の境の清流
・人馬のそしぎ場
(尼將軍・北条政子が騎馬を疾駆し、汗と埃にまみれた騎馬を洗ったと
いわれる)
・街道の東側の急な崖下に武蔵野国・久良岐郡日下・日野郷が開け、その郷の中を
縫うように鎌倉への本街道が通じていた。
5. 東慶寺領となる。(縁切寺): 年貢 米54俵(錢13貫500文)、畑3貫850文
・弘安7年(1284年) 北条時宗病没、その室 落髪、落飾して尼となる。
・潮音院殿覚山志道尼 時宗の菩提を葬う為、弘安8年(1285年)建立、
→東慶寺と名付け開山。
6. 史記への記録: 永正10年(1513年) 後柏原天皇の頃の古文書に「東慶寺領 前岡(舞岡)、野場なり云々」
と見える。
○菩提寺の建立(1530年頃): 臼居全右衛門来郷して10数年後永禄年代(1558~1569年)
の初め、鎌倉大町 安養院より昌蓮社深菅吞靈上人を請いて 全寺末寺として開山。
開基は臼居全右衛門胤知、正定院専菅浄念居士。